

教員活動評価（令和3年度実施〔年次評価〕）の評価結果について

令和3年11月20日

教員評価機構

○実施の目的

東京農工大学では「大学憲章」に掲げる基本理念を達成し、教員の業績を多面的かつ適切に評価するとともに学内外への説明責任を果たす等のため、以下の4点により「教員活動評価」を行っております。

- (1) 本学の教育・研究・社会貢献・国際交流・業務運営など諸活動の活性化を促し、教育・研究の質の向上を図ること。
- (2) 教育・研究の質の向上を図るための改善システムの一環として活用し、大学運営全体の改善を図ること。
- (3) 教員の序列化は目的とせず、その業績を多面的かつ適切に評価し、待遇面等に反映させること。
- (4) 学内・学外への説明責任を果たすこと。

○実施に当たって

実施に当たって、評価方法や評価項目などを全学的な実施要項等（東京農工大学教員活動評価実施要項）において定めています。定められた評価項目以外の活動についても、「特記事項」欄を設け、自由に記載できるようにしています。

○実施概要

令和3年度は、令和2年度実績に基づく年次評価を、以下の通り実施しました。

各教員は令和2年度の「教育」、「研究」、「社会貢献・国際交流」及び「管理運営」の4領域の活動実績をまとめた「教員活動評価報告書」を作成しました。

部局等の評価者は、「教員活動評価報告書」に基づいて評価を行い、評価結果の内容を教員評価機構において確認し、承認しました。

○評価対象、実施状況

1. 評価対象部局

評価は、下記の全部局等において専任の教員を対象に実施しました。

（年俸制適用教員をのぞく。）

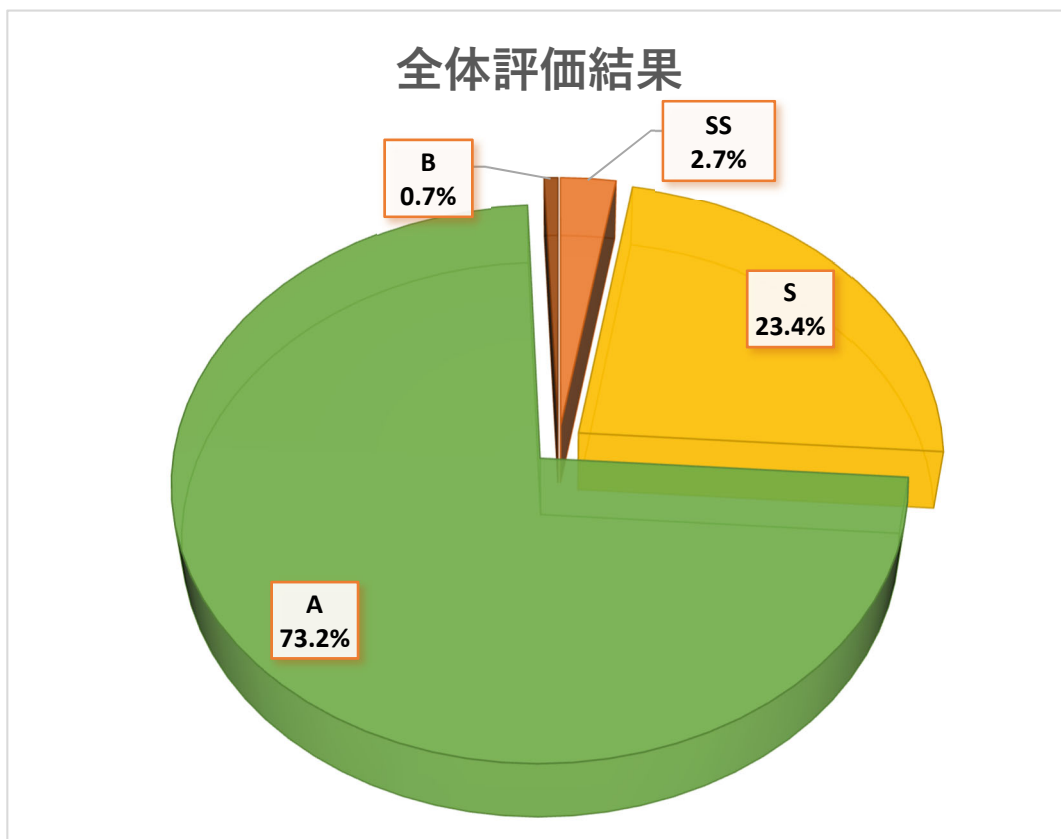
農学研究院、工学研究院、グローバルイノベーション研究院、工学府、農学府、生物システム応用科学府、連合農学研究科、農学部、工学部、グローバル教育院、先端産学連携研究推進センター、保健管理センター、総合情報メディアセンター、学術研究支援総合センター、科学博物館
--

2. 評価の実施状況

全部局等において、評価対象教員299名の評価を実施しました。

○評価結果等

令和2年度実績の評価結果は、下記のとおりです。



(参考) 評語について

評語	評価基準
SS	期待を大きく上回り、非常に優れた業績をあげている。
S	期待を上回る優れた業績をあげている。
A	期待どおりの業績をあげている。【標準値】
B	一部期待を満たしていない業績がある。
C	期待通りの業績をあげていない。

○評価結果の活用状況

・評価結果が期待を上回る (SS・S) 対象者について

全部局等において、勤勉手当の優良者候補とするなど、選定の参考資料として活用されています。

・評価結果が期待を満たしていない (B) 対象者について

該当者がいる部局等においては、部局長等が直接面談を実施し、改善方法について適切な指導・助言を行い、FD 研修の受講奨励等をしております。

※「教員活動評価」は、平成 18～20 年度実績を対象とした試行を実施し、学内の意見等をもとに更に検討を進め、改善を行った上で 21 年度から本格実施しています。

参考：教員活動評価 http://www.tuat.ac.jp/outline/kei_hyou/kyouinhyouka/index.html